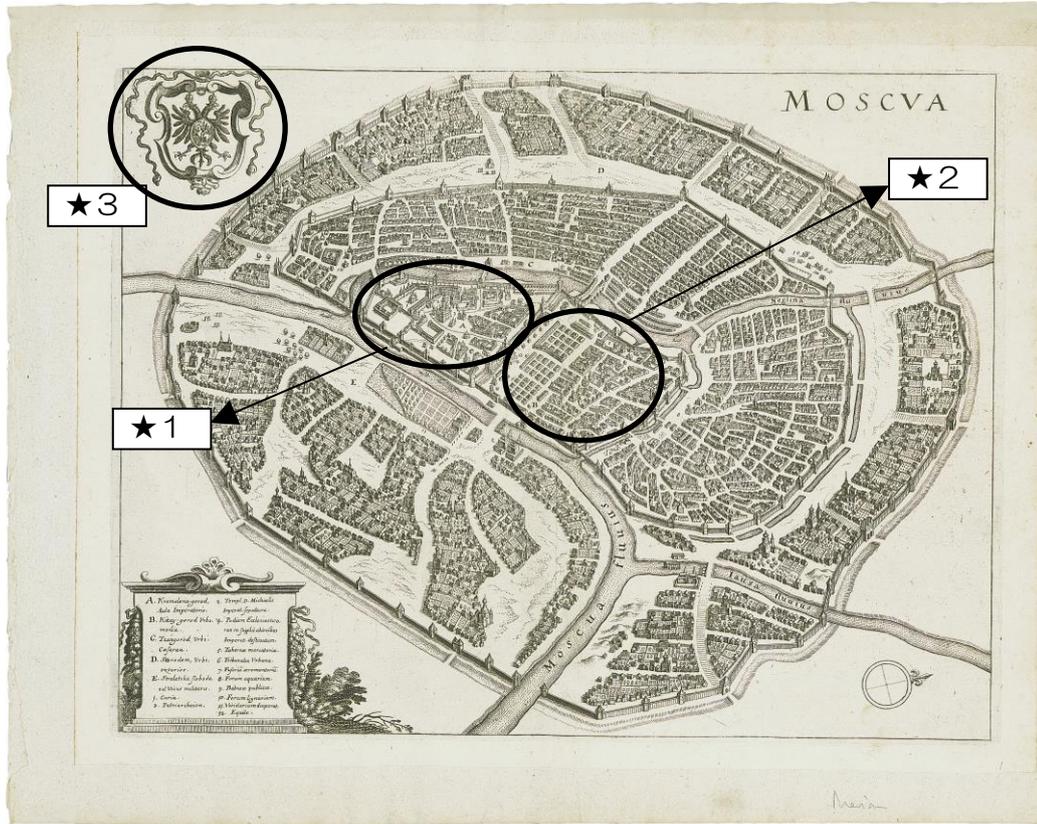


## 授業で使える当館所蔵地図

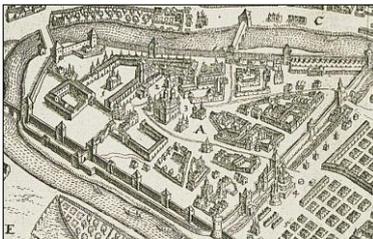
No. 61 地図1：『MOSCVA』 地図2：『1/200,000 МОСКВА (旧ソ連製 O-37-XXXII)』  
 作成年：地図1：不明 地図2：1987年  
 サイズ：地図1：33×42cm 地図2：46×36cm  
 作者：地図1：Merian (作) 地図2：ソ連軍参謀本部 (ГЕНЕРАЛЬНЫЙ ШТАБ)

地図1



### 【解説】

モスクワの古地図である。モスクワの歴史は今から850年以上前、モスクワ川に面した河岸段丘上に建てられたクレムリに始まる。ロシア語で「城塞」を意味するクレムリは、中世ロシアの多くの都市中心部に備えられていた。モスクワは12世紀に初めて歴史書に登場したのち、歴代の皇帝によって宮殿や聖堂などが建築され、モスクワ大公国の首都として発展してきた。ロシア革命(1917年)以降はソビエト連邦の首都として、ソビエト連邦崩壊後もロシア連邦の首都として発展を続けている。

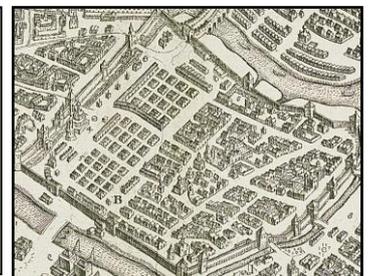


### ★1 クレムリン宮殿

この図には北西の一边をネグリンナヤ (Neglina) 川 (現在は地下河川となっている)、北東の一边を濠、南の一边をモスクワ (Moscuia) 川に囲まれたクレムリン宮殿 (図中A : Kremelena-gorod) とその周辺の市街が描かれている。現在のクレムリンは全長 2235mの城壁に囲まれており、大統領府や大統領官邸など、ロシア連邦政府の諸機関が置かれている。

### ★2 キタイ・ゴロド

ネグリンガヤ川が造る濠の東側には、石の壁が築かれたことからキタイ・ゴロド (石の街) と呼ばれた商人地区 (図中B : Kitay-gorod) がある。現在は名前の由来となった石の壁はほぼ現存していないが、赤の広場やグム百貨店、聖ワシリイ大聖堂や多くの公園がある、モスクワの中心地である。16世紀半ばに建設された聖ワシリイ大聖堂は描かれていないことから、この地図が作成されたのはそれ以前であると推測できる。

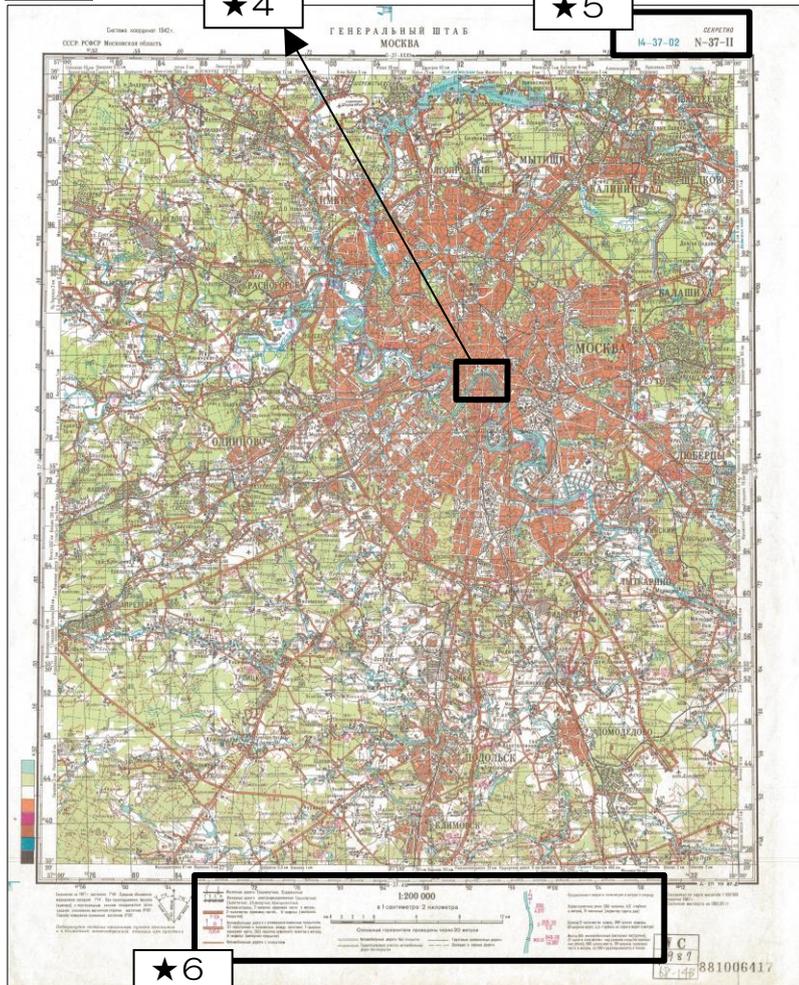


### ★3 紋章

双頭の鷲の胸部分に、騎士が槍を持ち、蛇 (ドラゴンともされる) を倒す様子が描かれている。この構図は現在のロシアの国章と共通している。この2つのモチーフが組み合わされた構図が使用されるようになったのはイヴァン3世の時代だと言われており、したがってこの地図は15世紀後半以降に作成されたものであると推測することができる。

槍を持ち馬にまたがった騎士が蛇 (ドラゴン) を倒す紋章の構図は、現在のモスクワ市の紋章と共通している。

地図2



【解説】

1987年のモスクワの地形図である。東西冷戦中のソ連軍によって作成された地図は、ソ連崩壊後に海外に流出した。クレムリン宮殿やキタイ・ゴロドを中心にして放射状および環状の道路網が整備されており、都市として大きく発展している様子が見て取れる。

★4 モスクワ中心部



地図1と比較すると、構造の大きな変化はないことが分かる。クレムリン宮殿の城壁を中心として、環状道路が幾重にも形成されている。過去の城壁や土塁が現在の幹線道路へと変化していったことが読み取れる。

★5 「СЕКРЕТНО」 = 「ひそかに」

東西冷戦中であった1987年、首都であるモスクワの地図は機密扱いであったということが分かる。また、出版は1987年であるが、地形は1982年時点のものであることが記されている。



★6 凡例



地図中には鉄道・道路や河川についての詳細な情報が書き込まれていることが分かる。河川については、幅や深さに加えて、堰・橋などの性能についても詳細に記載されていることが読み取れる。軍事防衛上の理由から機密扱いになっていたことが推測できる。

【利用の例】

- 中世ヨーロッパの城塞都市の様子を知る。
  - 川や壕・城壁に囲まれた町の様子から、中世ヨーロッパの城塞都市の様子を知ることができる。
  - このような構造が必要である理由を考えたり、日本の城下町の構造と比較検討したりすることで、当時のヨーロッパの社会状況について考察を深めることができる。
- モスクワの移り変わりや放射環状路型の都市の様子を知る。
  - 地図2より、環状および放射状の道路網によって都市が拡大している様子が分かる。また、現在の地図と比較することで、発展し続ける都市圏の様子を理解することができる。
- モスクワ中心部がモスクワ川の河岸段丘上にあることを知る。
  - 村落・都市の形成における地形の重要性に気付くことができ、授業の導入に利用できる。